

1



寵

姫

白  
玉  
帝

陛下  
の

SEIRA  
SHIMOTSUKI  
PRESENTS

おれ  
ました

と  
指  
名

に

霜 月 星 良





私には  
どうしても  
欲しい物がある

皇帝陛下にも  
望みがある

お互いの  
利害が一致した

だから  
こうなった……

はっ

ここが  
いいの？

アっ

んっ

はっ

花<sup>かれん</sup>蓮  
好きだよ


君にも  
好きって  
言っほしいな……

陛下…  
好きです

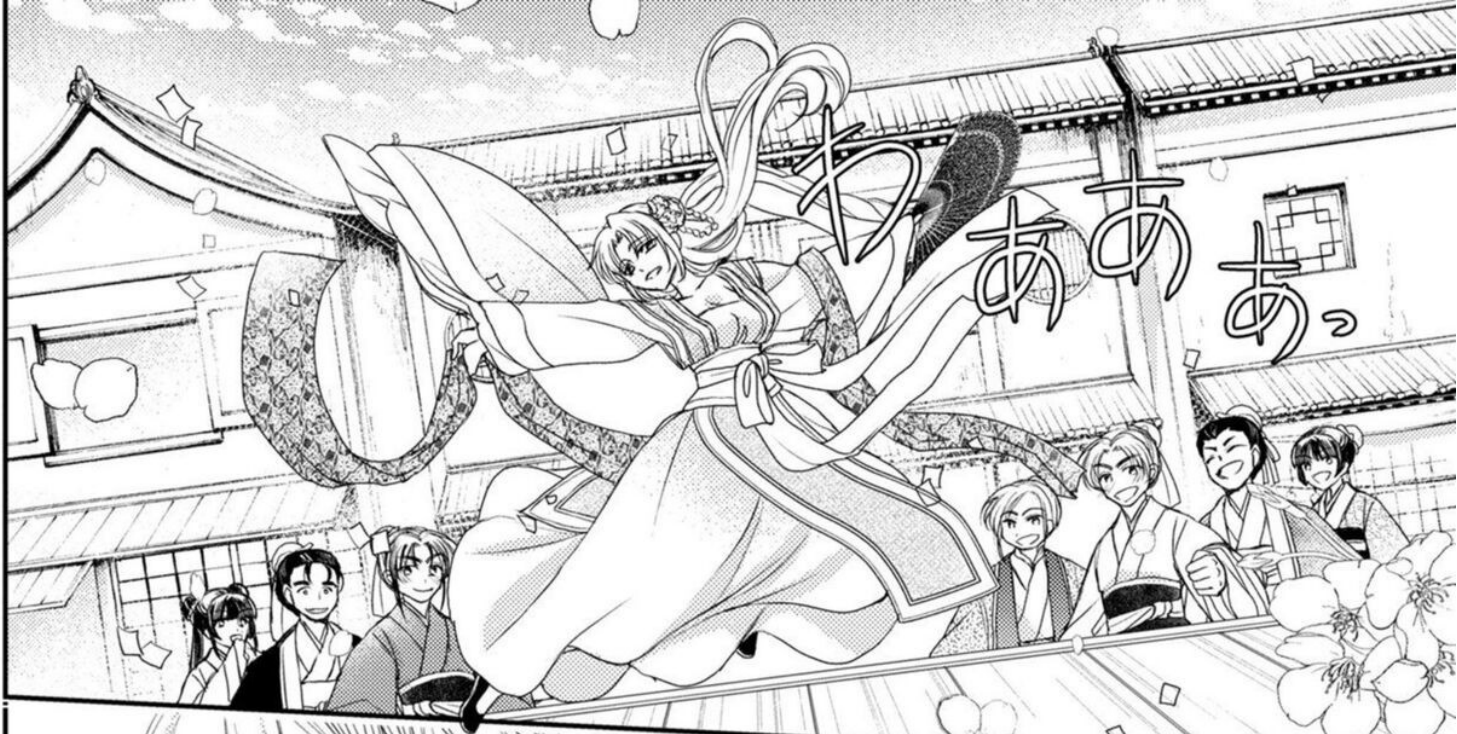
これは  
契約だ

さあさあ  
桃源国随一の  
踊り子

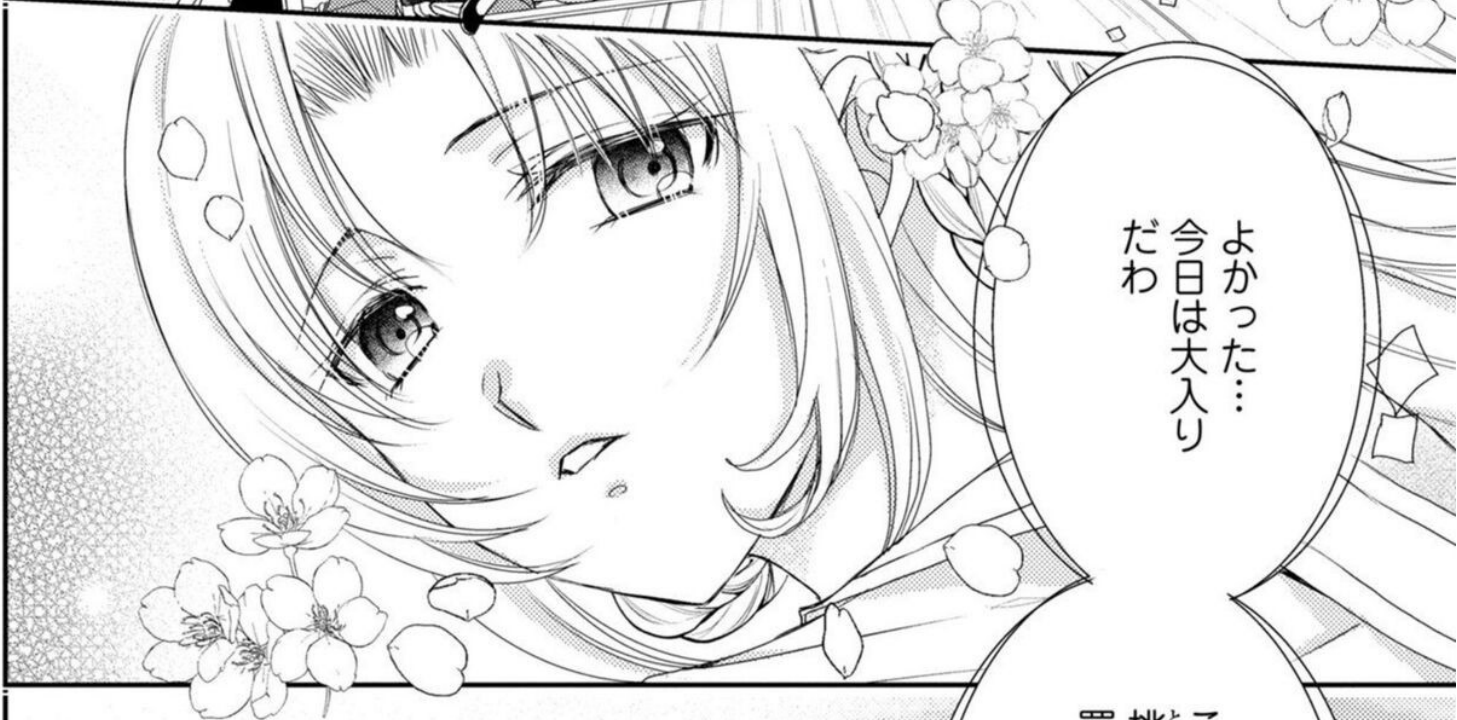
見なきや  
損々!!



はくらくぎ  
白楽座の  
花蓮だよ



わあ ああ あっ



よかった…  
今日は大入り  
だわ

これなら妹の…  
桃花の薬を  
買ってあげられそう



ほ  
ほ  
ほ

ほっ





これは…  
先月死んだ  
母親と同じ  
風土病だね…

桃花はもう  
駄目だ

そんな…  
座長!




だめだ…  
薬を飲むどころか  
吐き出してしまっ  
た



もう旅はできない  
だろうし…

うちも稼ぎの  
ない子を養う  
余裕はない


残念だけど  
あきらめてくれ  
花蓮




桃花の歌は…  
桃源国一よ

元気になったら  
必ず稼ぐわ!!

それまで…  
私が二人分  
何とかするから!



そりゃ  
無理だ…



こんな状態に  
なってしまったては

もう昔の様に  
声は出ないだろう



新しい妾妃を  
探す酒宴  
だそうだ

今上帝は  
麗しい容姿で  
女性人気も  
高いそうだが

何故だか  
女人と床を  
共にしない

だから身分問わず  
年ごろの健康な娘なら  
誰でも参加できる

お前の舞踏で  
皇帝の妾妃に  
してもらおうとい

そんな：  
私：妾妃なんて  
無理です！

さつき何でも  
するって言った  
じゃないか

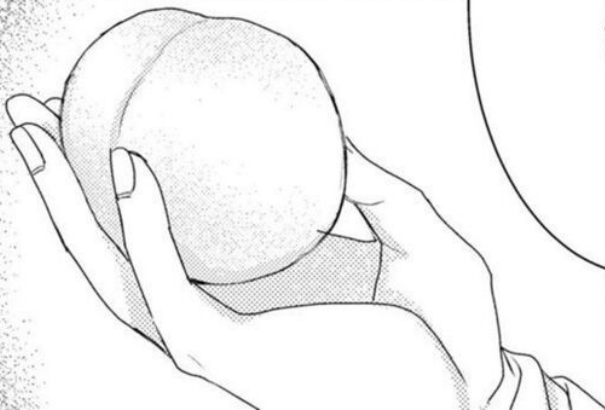
それには…

ちから！

皇帝の寵愛が  
えられれば  
桃花も助かる  
かもしれないよ

聞いた事は  
ないかい？


この国に伝わる  
『月桃』の話




この国の守護人  
『月仙』様が  
残したと言われる  
金色の桃

万病に効く薬で  
城のどこかに  
あるらしい

それを手に入れば  
桃花は助かる  
かもしれない



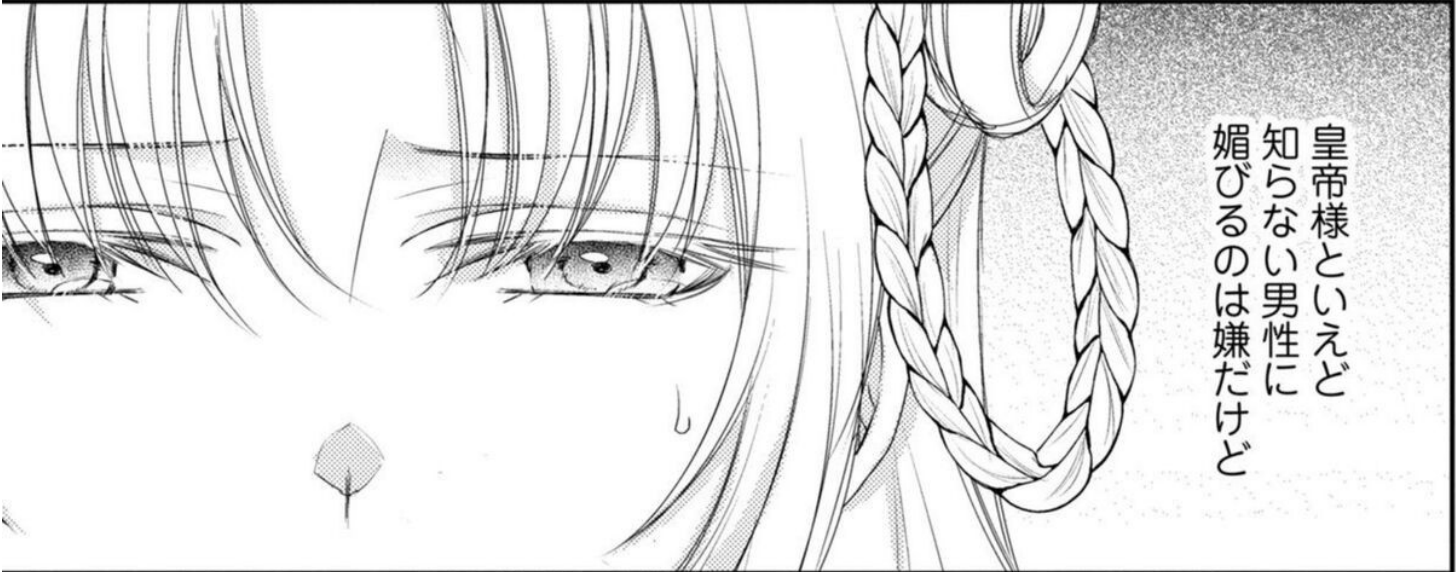
万病に  
効く桃…




寵姫になれば  
一生左うちわで  
悪い話じゃない

桃も手に入る  
かもしれないし…  
うちも潤う

なあに…  
金さえあれば  
妹の面倒は  
みてやるさ



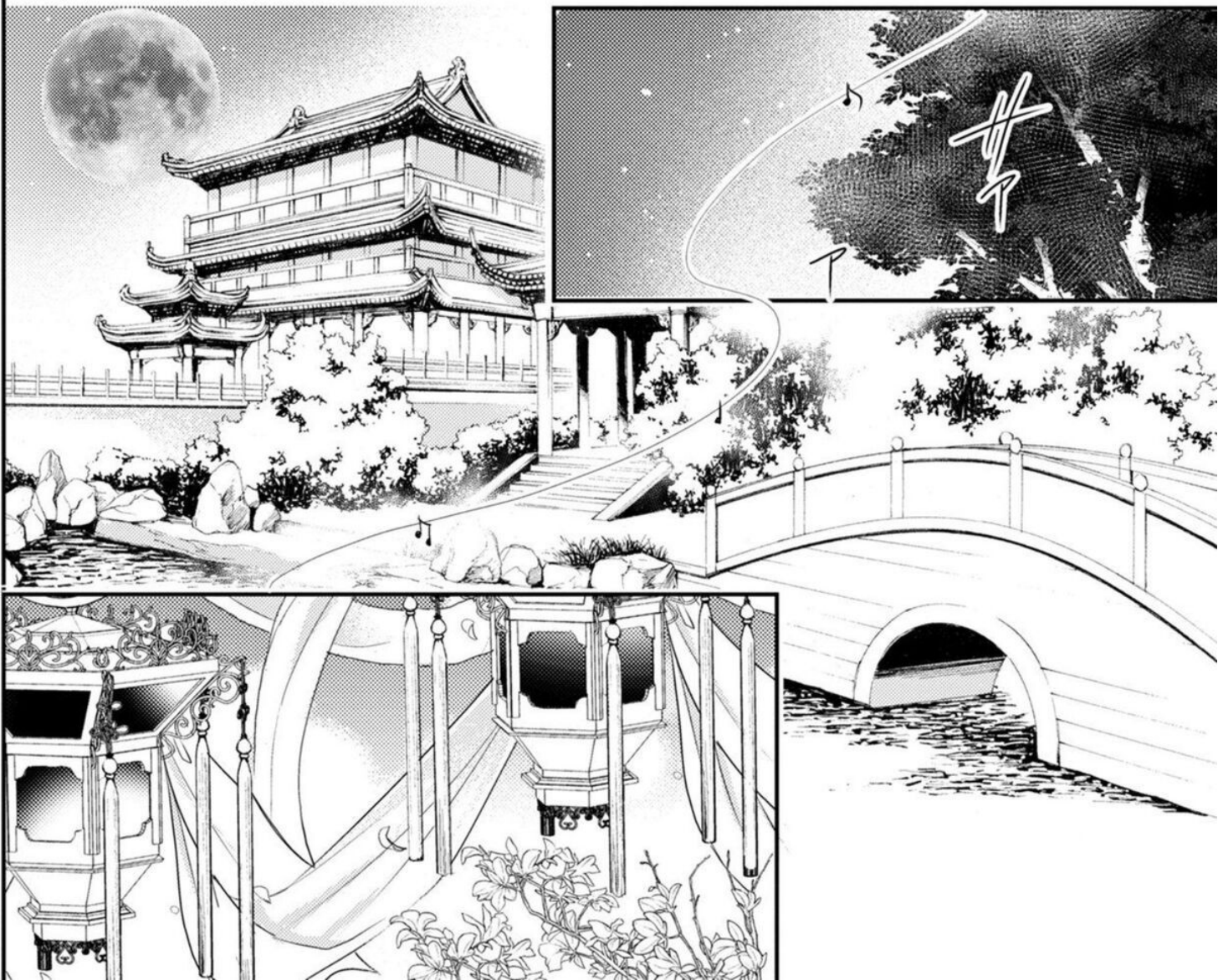
皇帝様といえど  
知らない男性に  
媚びるのは嫌だけど



桃花が助かる  
かもしれない…

私にはこれしか  
道がない!!

妹を…  
よろしく  
お願いします





すごいお庭に  
キレイな人ばかり

四幸

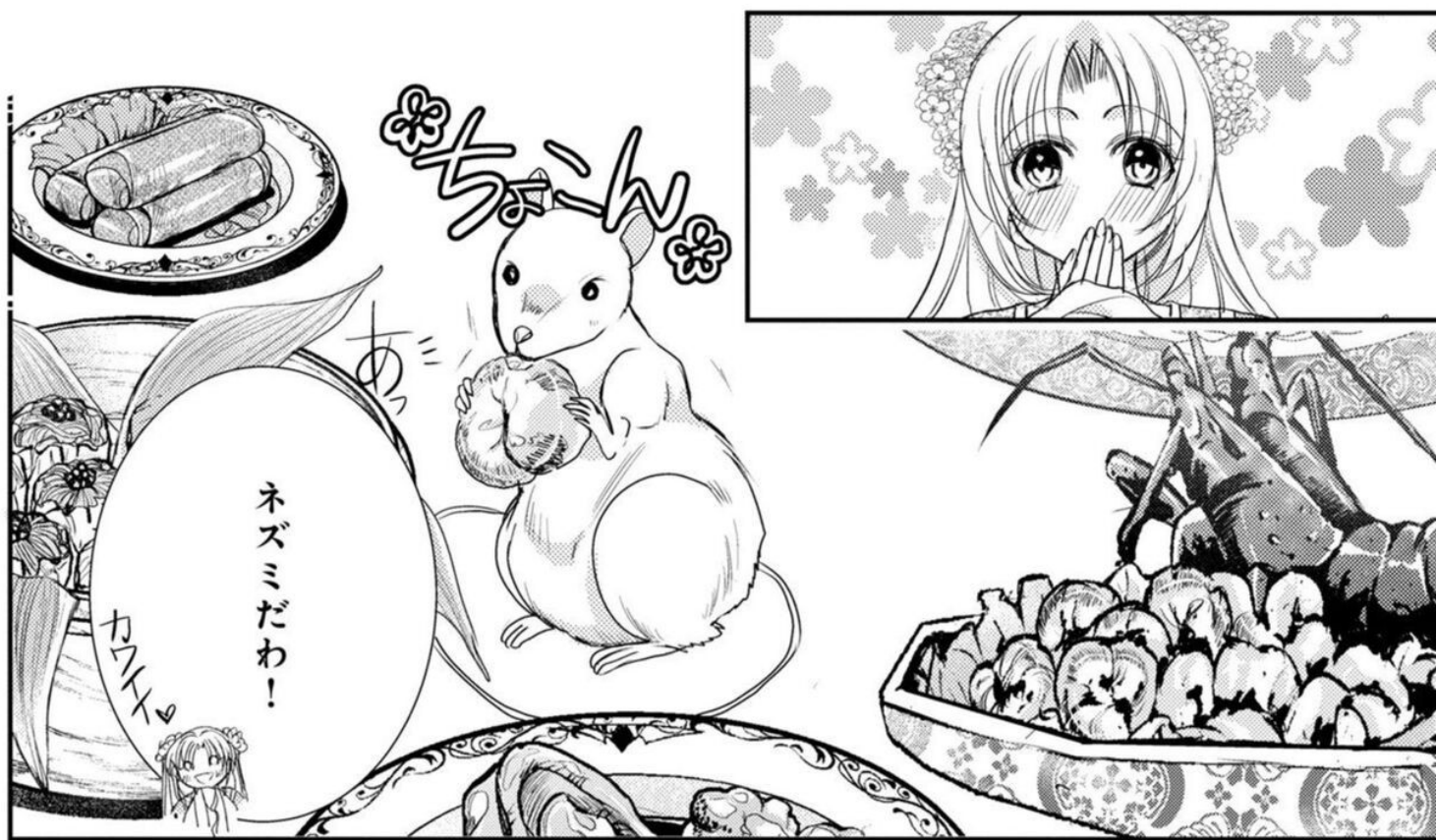
これが後宮  
なのね…

四幸

美女ばかりの  
状態で…  
どうやって陛下の  
目に留まるの？

これでも  
頑張ってるんだけど…





けがらわしい!  
誰か早くなんとか  
してちょうだい

いかが  
いたしました!?







だって…  
こんなのヒドいの…

生きてるのじゃ…



ちゅ…



よかった…  
息してる





育ちのいい  
お姫さまには小さな命なんて

その程度なのね  
……



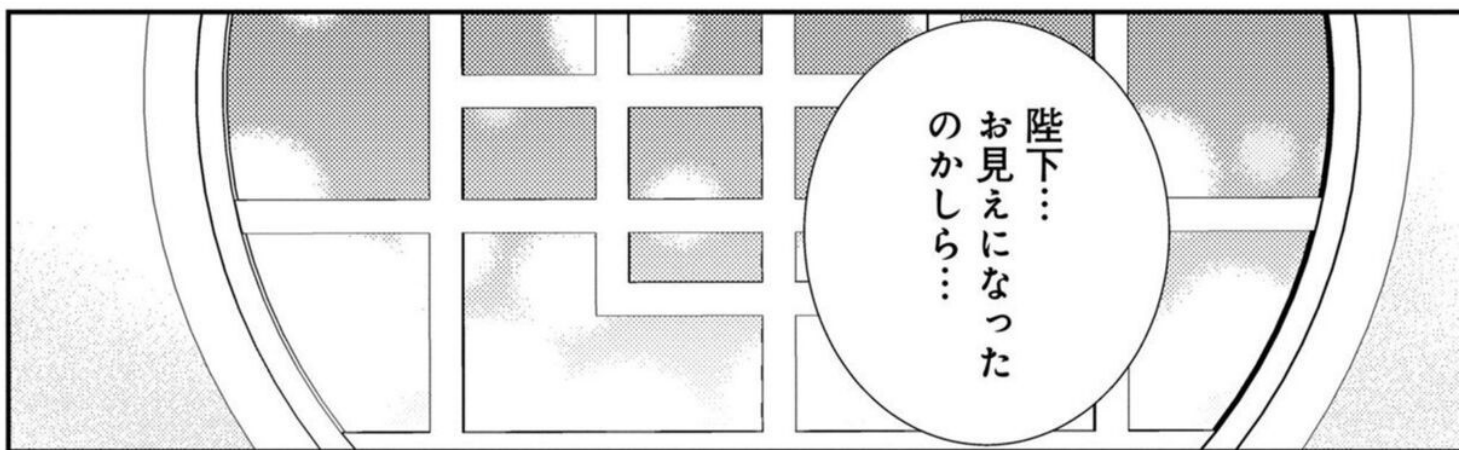
ここは  
私にとって

場違いなのかも  
しれない

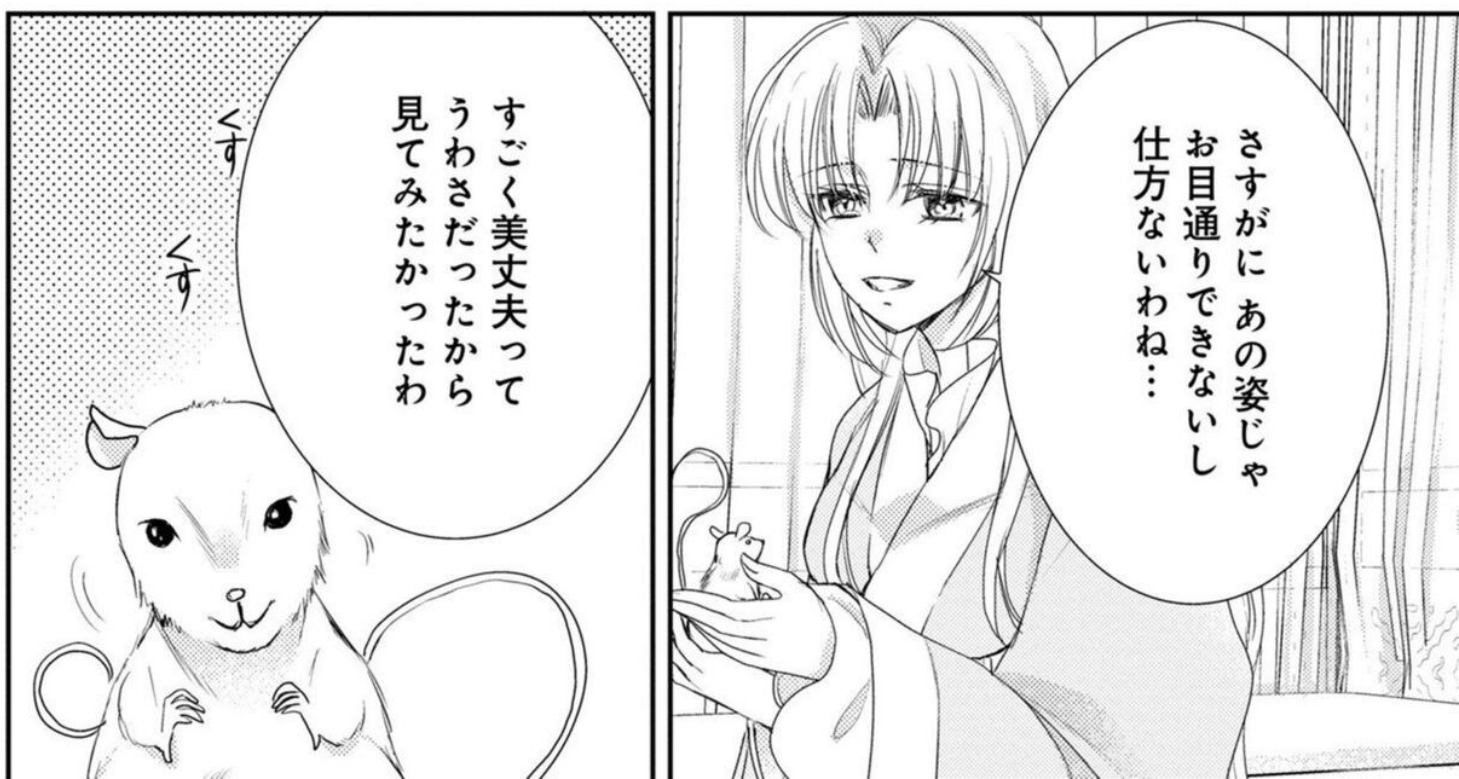


ふう…

なんだか  
疲れちゃった



陛下…  
お見えになった  
のかしら…



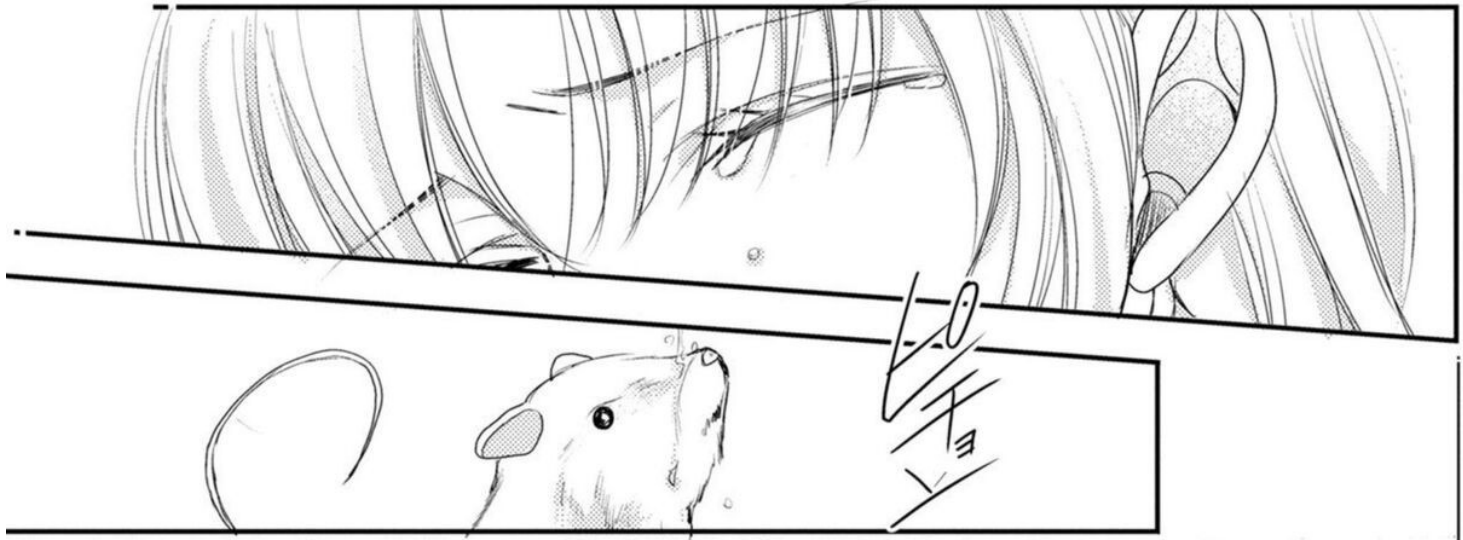
くす  
くす  
すごく美丈夫って  
うわさだったから  
見てみたかったわ

さすがにあの姿じゃ  
お目通りできないし  
仕方ないわね…



独りは寂しいから  
今日は一緒に  
寝てね

ネズミさん



桃花  
……

だめなお姉ちゃん  
でごめんね……

私……陛下に  
会う事もできなかった



はじめまして  
今晚和

助けてくれて  
ありがとう

よかった…  
元に戻れた



!!!

悲鳴はやめてね

ゴゴ  
ゴゴ



皇帝様…

あの…  
なんでネズミ

はっ!!



なんでもいから  
服着てえ!!

丸見えです

おっと…

ごめん  
忘れてた…



桃源国皇帝  
「柳月」です

こんな顔だけど  
期待には  
応えられたかなー



えっとね…  
これは秘密  
なんだけど

皇帝になってすぐ  
女遊びが過ぎて  
月仙に術を  
かけられたんだ

月のある夜は  
ネズミに変化  
しちゃうんだ




元に戻るには  
朝を待つか  
乙女の体液が  
必要だね

術をとくには  
『真実の愛』が  
いるんだ


は…

はあ


ちかい…



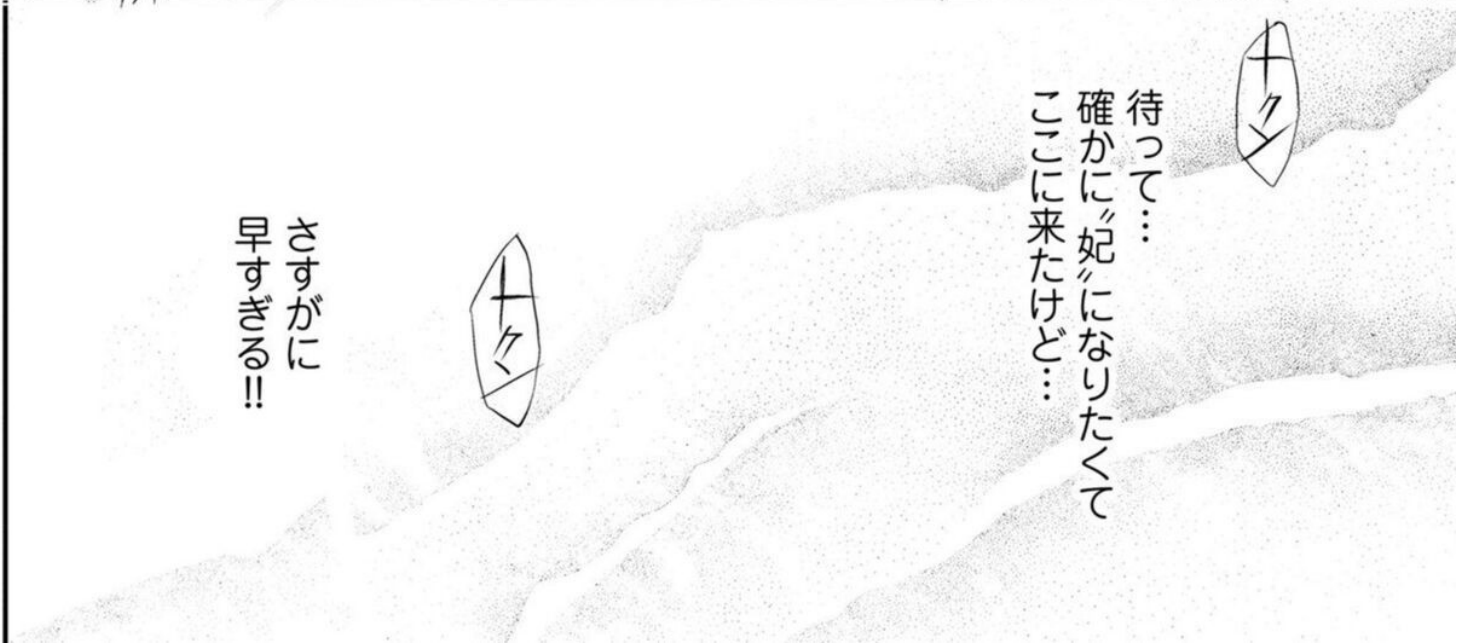
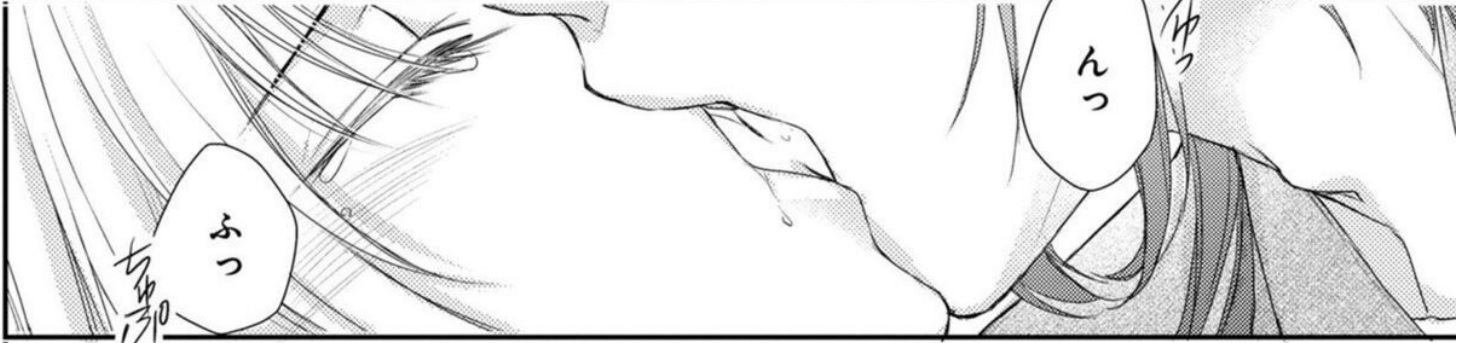
やっと  
巡り合えた



ネズミ  
私を怖がらず  
受け入れてくれる  
女性



どうか…  
私の妃に  
なってほしい







拒絶…？

なんで…

私に抱かれると  
みんな喜ぶのに

！



皇帝陛下  
だからって

なんでも自由に  
なると思わないで！

じゃあ…  
なんで君は  
この宴に  
参加したの？

ビキ

妃候補に  
なるって…  
こういう事だよ？

そんな矜持きやうじが  
あるなら  
ここには来ないでしょ



契約しよう

君が妃になつてくれたら  
何でも望みを  
叶えてあげる

悪い話じゃ  
ないでしょ

私も：  
今の所君以外  
抱けなさそう  
だから：

君：  
名前は？


花蓮です

「愛や恋じゃなく

「契約」……

また：  
桃花の歌声が聞けるなら……

その為なら……




私の身体を  
さしあげます


だから…  
桃をください




「月桃」を




わかった…



契約成立だ



偽装でも  
甘い恋人のまね事を  
しようか…



こうして私の  
「契約妃生活」が  
始まった—…



## 皇帝陛下の寵姫にご指名されました【単話売】 1話

霜月星良

©SEIRA SHIMOTSUKI

デジタル版発行 2022年9月

初版発行 2022年9月

発行人 北脇信夫

発行所 株式会社 宙(おおぞら)出版

<https://ohzora.jp/>

最新の住所・電話番号は弊社HPをご覧ください。

本書はフィクションです。実在の人物、事件、団体には、いっさい関係ありません。

本書の一部、または全部を無断で複製・転載・上映・放送等することは、法律で定められた場合を除き、著者及び出版者の権利の侵害となります。

2



寵

姫

白

玉

帝

陛下

の

SEIRA  
SHIMOTSUKI  
PRESENTS

おれ  
あした

指  
名

に

霜 月 星 良

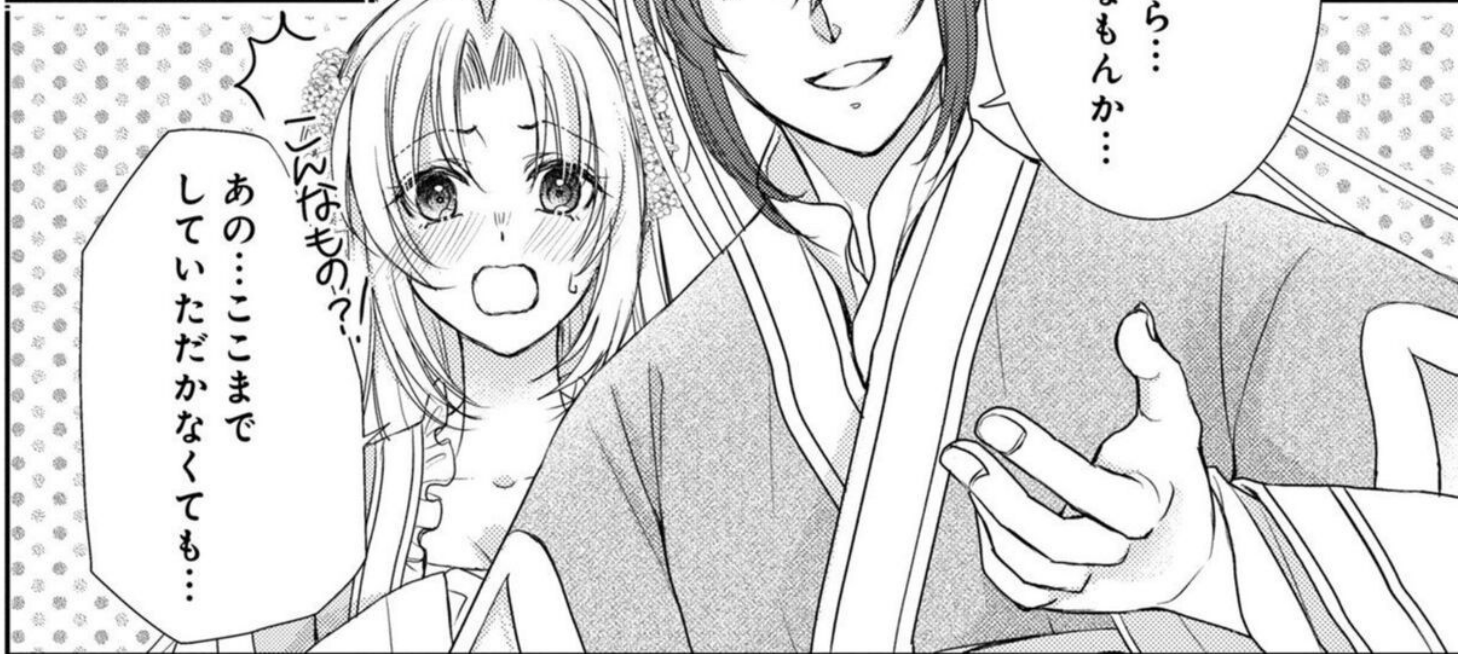






はい…  
今日からここが  
君の宮だよ

即席で  
用意したから…  
まあこんなもんか…



あの…ここまで  
していただかなくても…

「はなもろっ?」

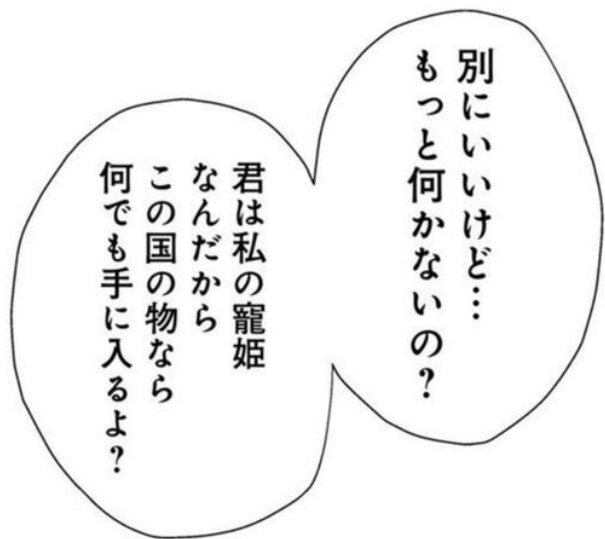


しれ  
何言ってるの?  
君は私の寵姫に  
なったんだから  
これくらい当然だよ

後宮の位は  
あとで空きを見て  
任命するから

「はくろ」

なるほど  
「高い位を…」





そう言われても  
出てきません

だって…  
見た事も  
聞いた事も  
ない物を


欲しがったり  
できませんよ




変わった娘だ…

私利私欲が全くない

私が今まで見てきた  
女たちとは違う…




じゃあこれから  
いっぱい体験すると  
いい



おいで：  
連れてってあげる

君の欲している  
『月桃』のある庭



ここは…  
この前の宴の庭とは  
違うのですね

薬草が  
多いような…

うん…  
ここは国の中枢  
皇室の為の薬園だ



これは  
月仙げっせんが好む  
由緒あるお酒

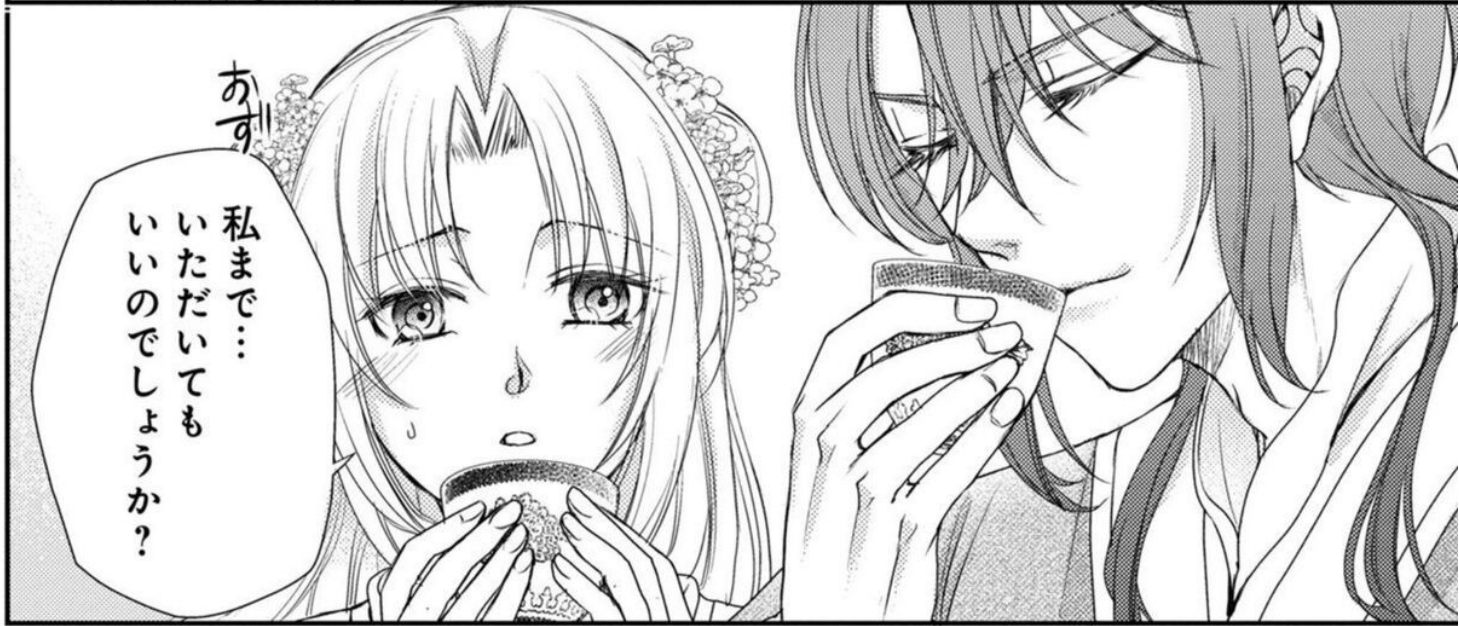
ここで飲んでいけば  
香りに誘われて  
性悪仙人が現れるさ

はあ…

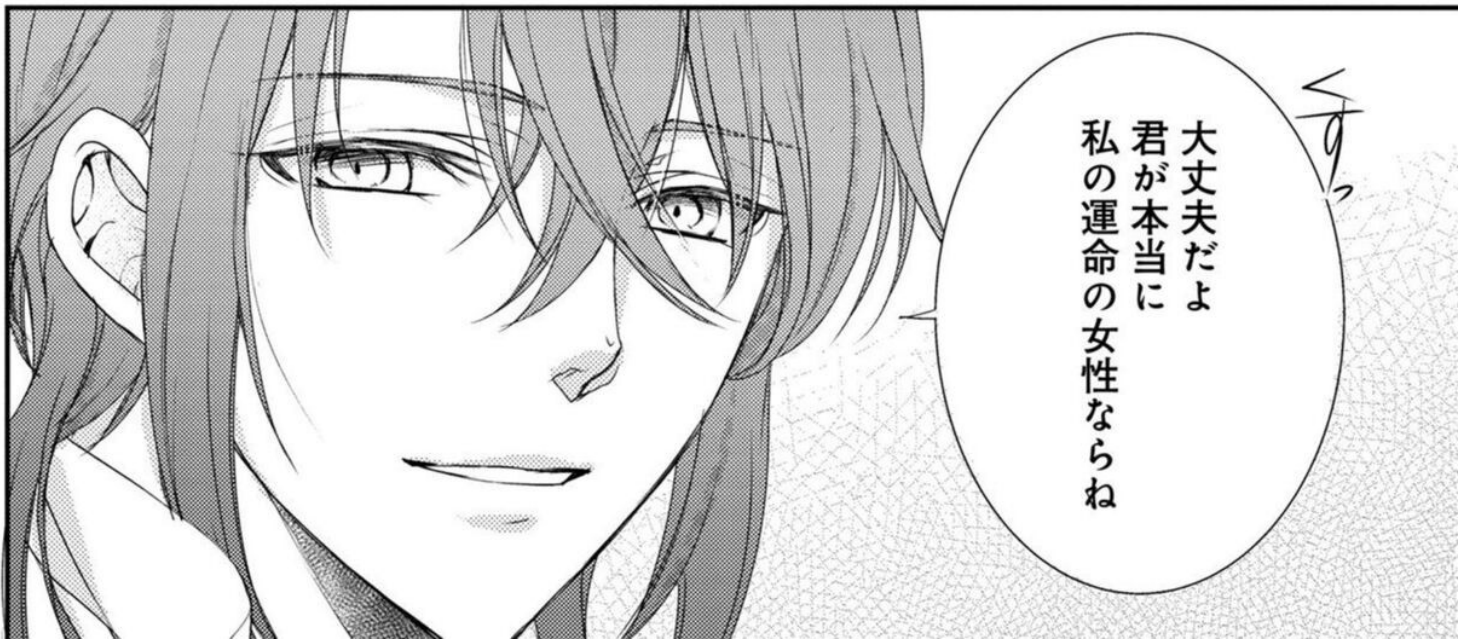


そのような場所に  
私のような者が  
入ってもいいのでしょうか

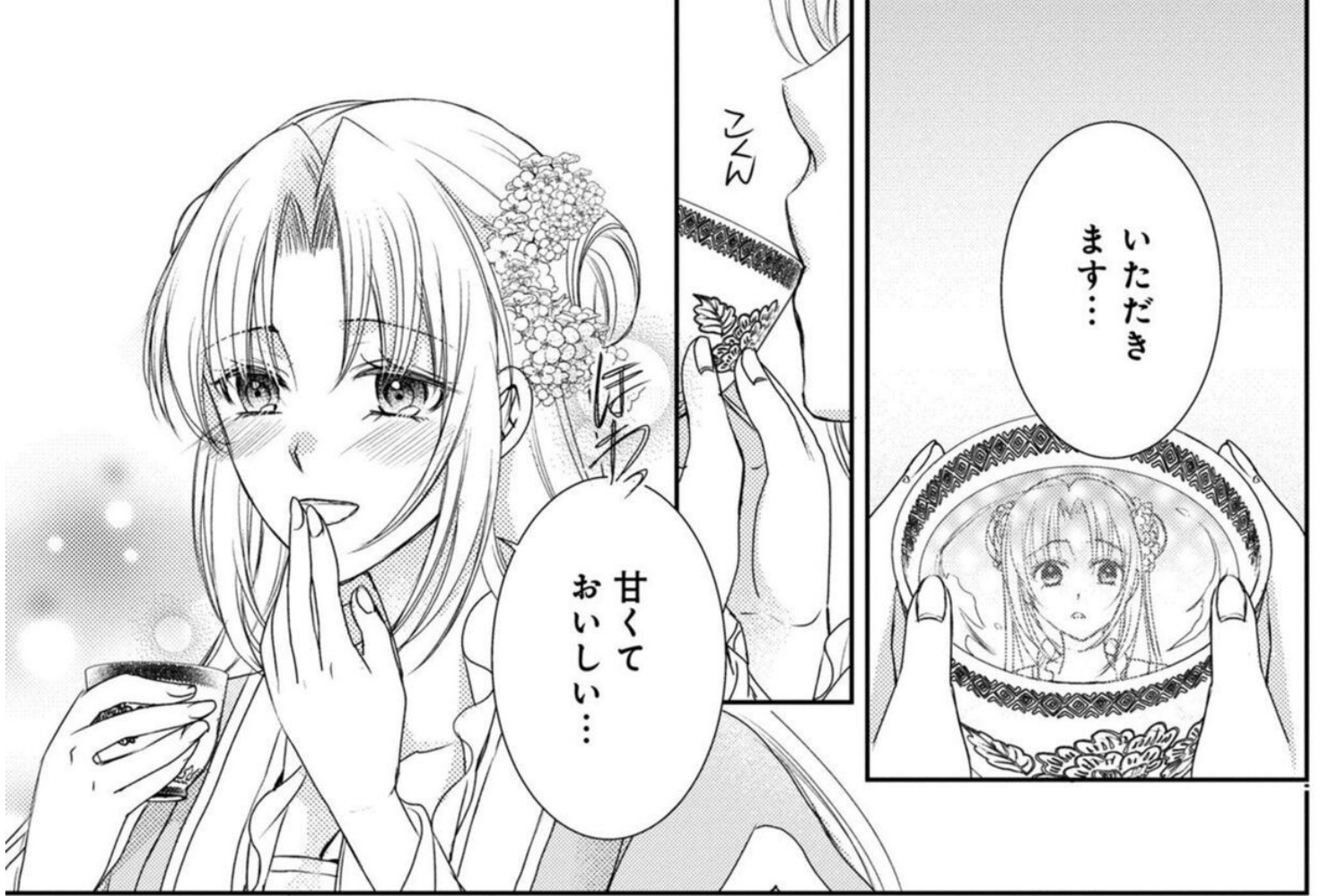
本当は難しいと  
思うけど…  
約束だしね



私まで…  
いただいても  
いいのでしょうか？



大丈夫だよ  
君が本当に  
私の運命の女性ならね



柳月様…  
りゅうげつ

あまり私に  
気を遣わないで  
ください…

私は贅沢な  
暮らしがしたくて  
ここに来た訳では  
ありませんから…

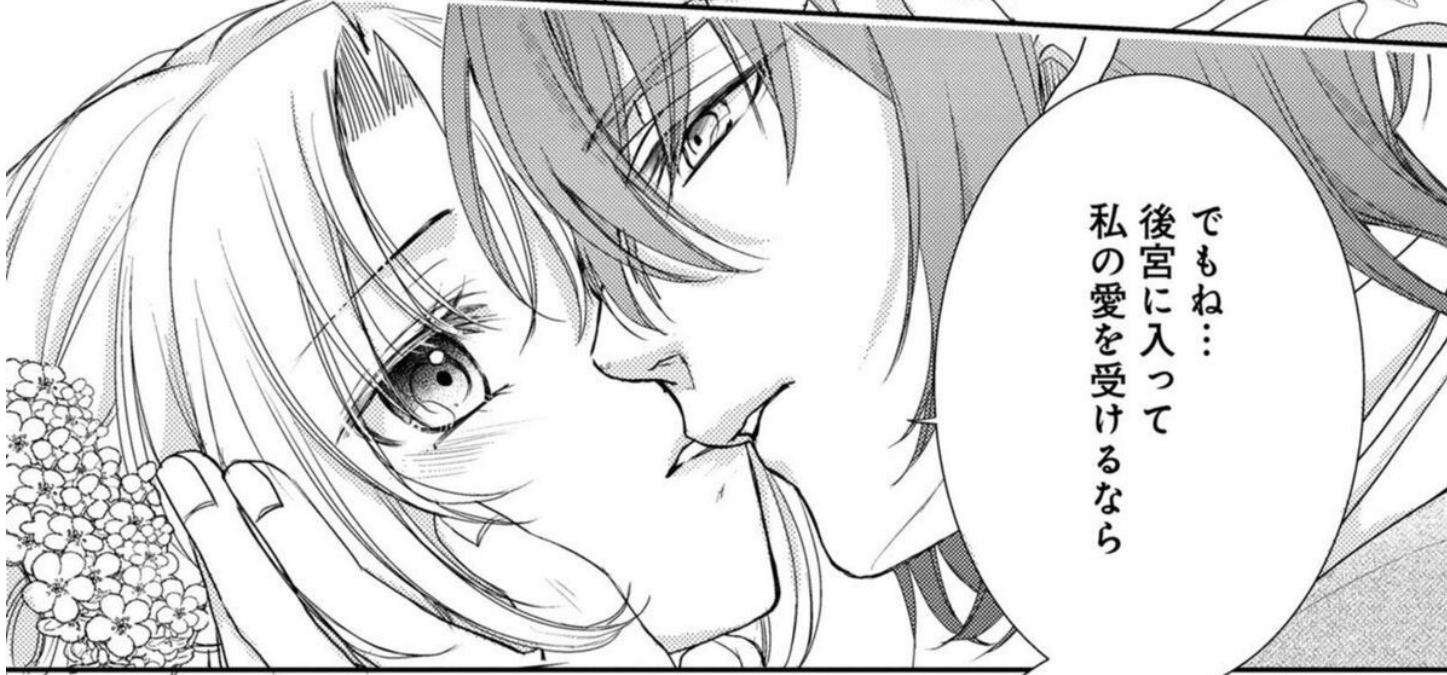
妹を助ける為に

皇帝の寵姫になった  
立派な契約…

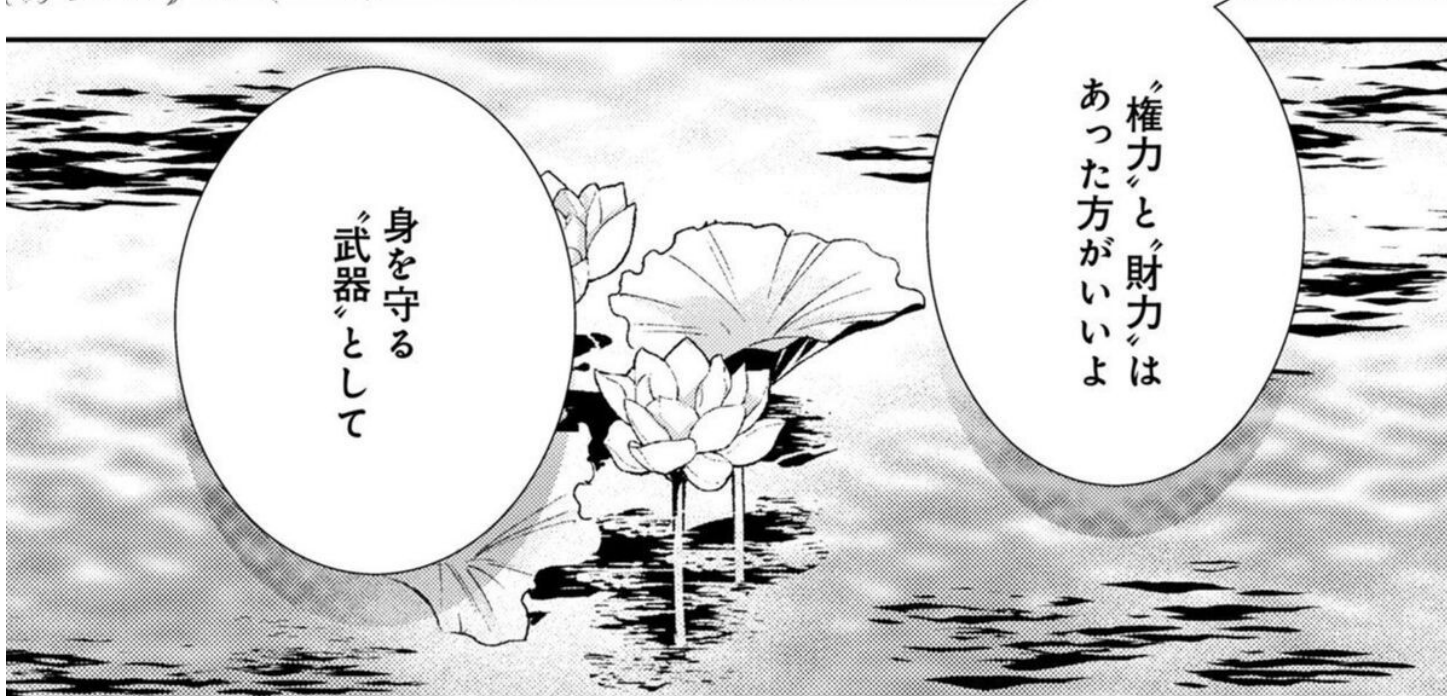
コト…  
そうだね



んっ



でもね：  
後宮に入って  
私の愛を受けるなら



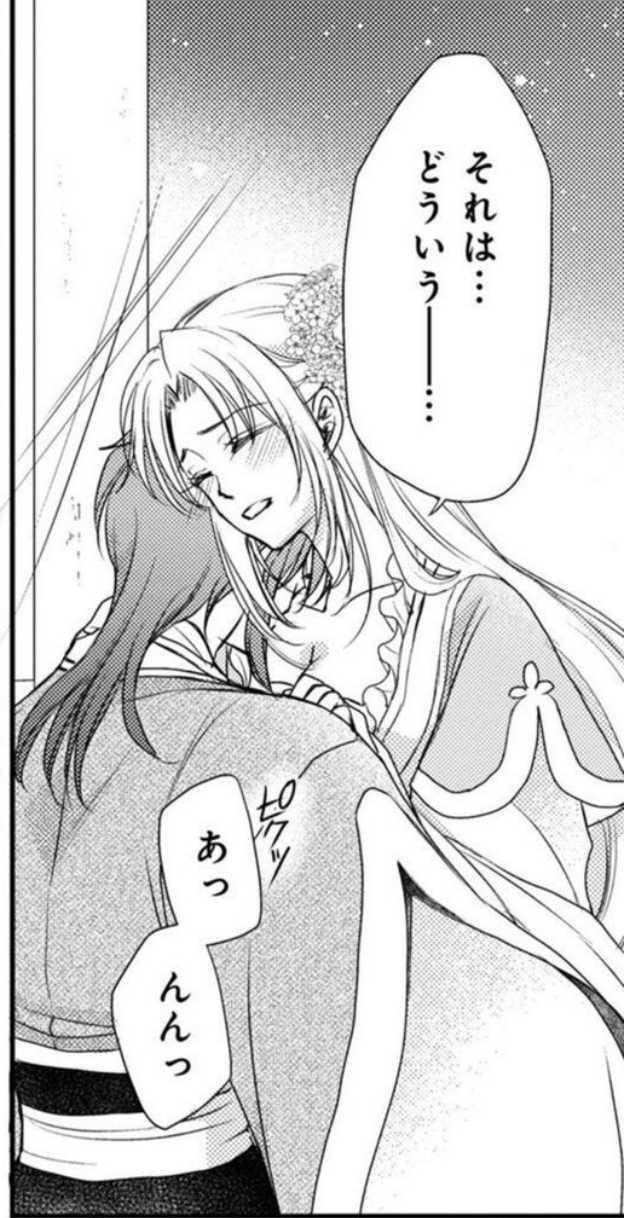
権力と財力は  
あった方がいいよ

身を守る  
武器として



そうそう…  
さっきのお酒  
人には媚薬にも  
なるらしいよ

コリ  
コリ



それは…  
どういう…

あっ  
んんっ



ちよつと  
触られただけで

敏感に  
なるでしょ？

あっ  
柳月…さま



あっ



月のある夜は  
精力が強くなる  
みたい…

んっ  
ん

発情すると  
ネズミになっちゃ  
うから  
花蓮の甘い蜜を  
飲ませて



身体が熱い…

あっだめ

そんなところ…  
舐めちゃ



だめだと花蓮は  
そんな顔するんだ？

だめ？

トロけて  
いるよ？



ふふ…  
純粹でヤラシイ  
素直な娘は好きだよ

ここ…  
いじられると  
気持ちいいんでしょ？

んっ

んん

柳月様の指…  
気持ちいい…

もっと…欲しい

あっ  
柳月様っ



花蓮様

花蓮…見て…  
私の…

君が欲しくて  
こんなになってる





はあ

君を愛したくて  
たまらないんだ

ねえ…  
君から言って？

私に…  
どうされたい？



こんな恥かしい事  
できちゃうのは…

きつとお酒のせいだわ

あすっ  
柳月様が  
欲しいです…



ズッ  
ズッ

はあっ

あん



ズッ  
ズッ

よく  
言えました



はっ

あ…  
今締まった…

恥かしい事  
言われるの  
好きなの？



こんなに濡らして  
嬉しいなあ

アッ

アッ



ズッ

ちが…



可愛い



柳月様の声が奥まで響いて…



溶けてしまいそう…



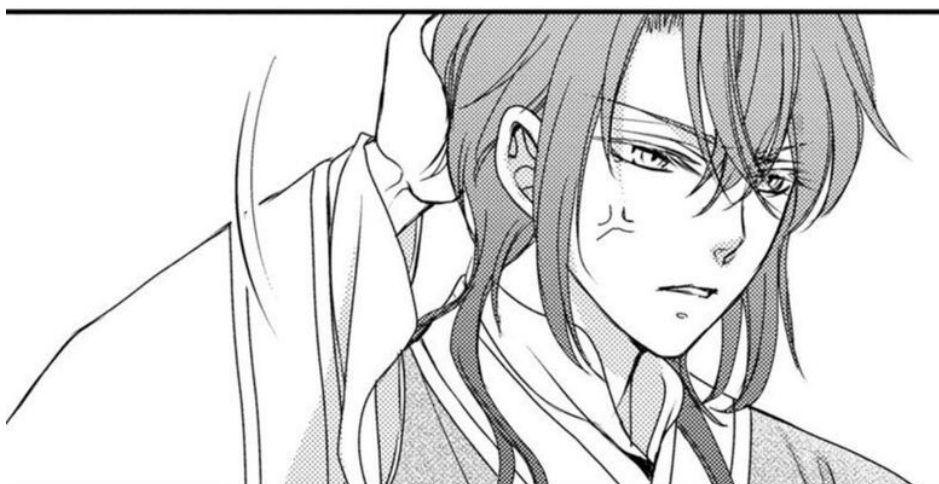
!!

誰!?  
見られた…



ふふ

よかったじゃないか  
相性のいい運命の相手が  
見つかった



はあ  
…人の情事を  
盗み見るなんて  
悪趣味だな



月仙

この人が  
月の仙人様!!!

いい加減  
私にかけてたネズミの呪い  
解いてくれないか？

お前が真実の  
愛をつかめば  
おのずと解ける

人の家で勝手に  
房事ぼうじに耽ひたっていたのは  
お前だろう

カク

見ての通りだ！  
私と花蓮は  
相思相愛っ

もう花蓮にカ  
ケたんじゃないか

問題は  
ないだろう！

陛下…  
その言い方は

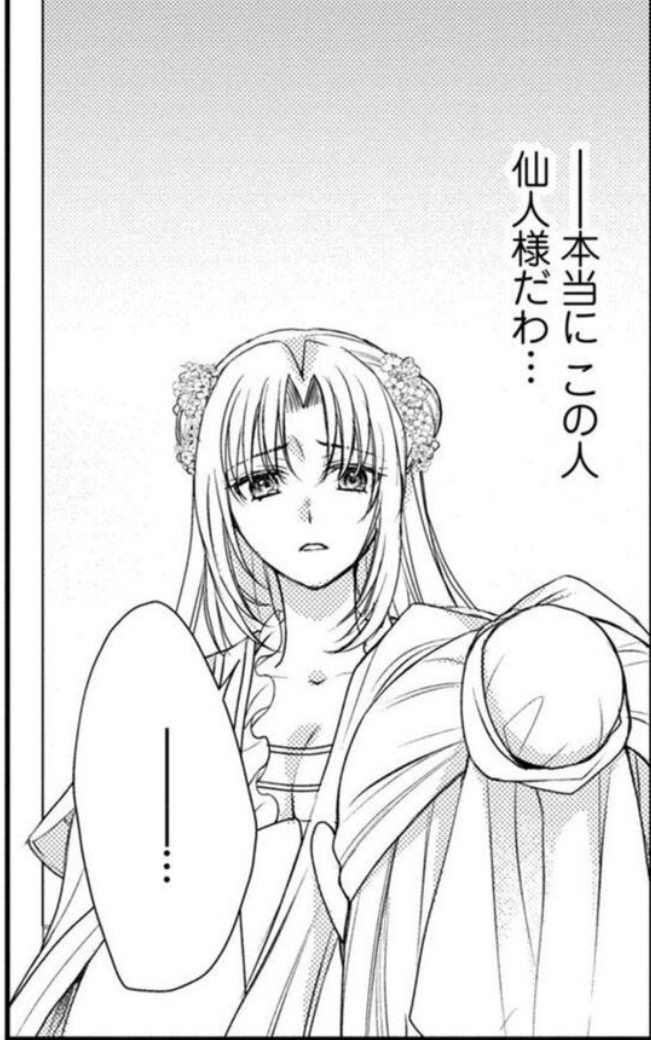
あああ



どこがだ  
たわけ！

ゴ  
ン

陛下！！



——本当にこの人  
仙人様だわ……

……



何をする！  
元に戻せ！！

ほら見ろ……  
本当に愛し合って  
いるならネズミには  
ならないはずだ



あの……ここには  
どんな病にも効く  
月桃があると聞きました

どうか……  
病に侵された  
妹の為に

ひとつ恵んで  
ください……



……  
確かにある……

だが一般の  
人間に見せる事は  
できない

ちよつとくらい  
いいじゃないか！



そうだな……  
酒の席の余興に

私を満足させる  
芸をしたら  
考えてやってもいい……



本当ですか！



私は桃源国一の踊り子花蓮

一曲…  
舞わせてください



だが人間の舞いなど  
芸がない……

立て

？



この国一とは  
大きく出たな…

面白い  
ぜひ見たい



きゃあ

着物が!!



やるもやらぬも  
娘の自由よ

時限は  
この酒が空に  
なるまで…

…



この変態仙人！  
私の姫に何をす

うるさいネズミだ…  
心配するな  
ただの余興だ

お前も見ろ



桃の為なら…

恥かしいくらいが何よ…



やらせて  
いただきます

私負けない!!

●つづく●



## 皇帝陛下の寵姫にご指名されました【単話売】 2話

霜月星良

©SEIRA SHIMOTSUKI

デジタル版発行 2022年11月

初版発行 2022年11月

発行人 北脇信夫

発行所 株式会社 宙(おおぞら)出版

<https://ohzora.jp/>

最新の住所・電話番号は弊社HPをご覧ください。

本書はフィクションです。実在の人物、事件、団体には、いっさい関係ありません。

本書の一部、または全部を無断で複製・転載・上映・放送等することは、法律で定められた場合を除き、著者及び出版者の権利の侵害となります。